◆講演『新型コロナウイルスの感染と防御』

大阪大学微生物病研究所　ウイルス感染制御分野　准教授　　中山 英美 氏

【講演概要】

新型コロナウイルス感染症は、世界で５００万人の命を奪い、私たちの日常生活を激変させました。

2021 年末、日本ではワクチン接種が進み人々の生活は元に戻ろうとしています。

ポストコロナ社会においても残しておくべき対策は何なのか？を中心に、ウイルス感染の今後の見通しについて、ウイルス学者の視点からお話します。

（感染流行の状況により、講演内容を変更する場合があります。）

講師略歴

中山　英美　（なかやま　えみ）

医師、医学博士

大阪大学微生物病研究所ウイルス感染制御分野准教授

1992 年名古屋大学医学部医学科卒業。

２年間の小児科研修の後に東京大学医科学研究所医学系博士課程修了。

HIV 感染に関わる宿主因子の探索をメインテーマに、2015 年からはタイ王国マヒドン大学と共同でチクングニア・デングウイルスの抗原検出キットの開発にも従事。

2020 年からは新型コロナウイルスと免疫の関係に興味を持っている。

◆講演『カーボンニュートラルと原子力発電』

国際大学副学長・大学院国際経営学研究科教授　　橘川 武郎 氏

【講演概要】

日本においてカーボンニュートラルへ向けた動きが活発化するなかで、カーボンフリーのエネルギー源である原子力をめぐる政策は、あいかわらず混乱し、漂流を続けている。本講演では、その原因を探究するとともに、問題の解決方向を展望する。具体的に焦点を合わせるのは、①リプレース・新増設の回避とその帰結、②使用済み核燃料の処理問題（いわゆる「バックエンド問題」）、③柏崎刈羽原子力発電所の再稼動と東京電力の再建、という三つの論点である。優れた原子力推進論者であり、2016 年に惜しまれながら急逝した澤昭裕氏は、遺稿の冒頭で、「原子力を殺すのは、原子力ムラ自身である」と記した。本講演を通じて、その言葉の真実味が明らかになるであろう。

講師略歴

橘川　武郎　（きっかわ　たけお）

国際大学副学長・大学院国際経営学研究科教授

1951 年生まれ。和歌山県出身。1975 年東京大学経済学部卒業。1983 年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。同年青山学院大学経営学部専任講師。1987 年同大学助教授、その間ハーバード大学ビジネススクール 客員研究員等を務める。1993 年東京大学社会科学研究所助教授。1996 年同大学教授。経済学博士（東京大学）。2007 年一橋大学大学院商学研究科教授。2015 年東京理科大学大学院イノベーション研究科教授。2020 年国際大学大学院国際経営学研究科教授。2021 年より現職。東京大学・一橋大学名誉教授。総合資源エネルギー調査会・産業構造審議会臨時委員。元経営史学会会長（在任期間 2013～16 年）